



特定非営利活動法人

とことこニース

36

とことこ理事長 中山 君江

二〇二二年が始まりました。毎年思うのですが、この年はどんなことがおこるのでしょうか。

幸せな年でありますように願います。

昨年は災害多い年でした。三月十一日の東日本の大震災、今なお傷跡があり、元の生活に戻れていません。そして近畿地方でも台風の大雨で大勢の人が亡くなりました。人は自然の前では無力だと思ひ知らされます。そして私たちの普段いつもどりの生活がどんなにありがたいことが、災害がおこるたびに身にします。

さて私どもとことこも二〇〇六年七月二〇日に法人の認定を受け昨年で無事5年目を迎えました。

私にとってはたかが五年されど五年です。

何もわからないままに小さな小船が出向い、大勢の方から助言をいただきました。

本当に皆様ありがとうございます。

とことこは少しずつですが、力強くなったと私は思っております。

とことこの仲間達

～とことこ納会にて～



一段一段登り、あるときはそこで立ち止まり、悩み、また皆様に背中を押してもらい、障害者自身が運営しているなことを学ばしていただきました。まだまだ小さな「とことこ」ですがみんな一生懸命活動しております。

いつも「とことこ」をご利用してくださっておられる皆様 感謝申し上げます。

これからもよろしく願います。

も「とことこ」を大きくさせるためにもお一人でも多くの方のご利用をお待ちしております。

介護支援センター「とことこ」はヘルパー派遣の事業所です。ただ、ご利用者さんと支えてくれるヘルパーさんを求めています。

「とことこ」は自分らしく生きていく為にどんなことが自分に来るかを見つける場所です。人は誰でも出来ることがあります。手が動かなくても、しゃべれなくても、歩けなくても、眼が見えなくても必ず何かが出来ます。あきらめないで仲間達と一緒に自分探しをしましょう。お待ちしております。

「とことこ」理事長の私は「介護支援センター「とことこ」の仲間達や「とことこ」の仲間達を誇りに思っております。

障害がある人ない人、小さいながらも頑張っています。皆様いつもおつかれさまです。

そしていつもありがとうございます。。。

さて今回は、私の五年間を皆様に書いていただいております。

私の五年間は、新居に移り、三日目に主人が亡くなり、さらに一〇年あまり私を連れて歩いてくれた盲導犬のウィンクが亡くなりました。

しかしすぐに盲導犬エリナが家族の仲間入り。

そしてこの二〇一一年は大切な人との別れが多すぎました。出会いより別れの方が多いのはつらいものです。来年は別れより出会いが多くなりますように願います。



とことこ五周年記念パーティーにて

特定非営利活動法人とことこ 五年の歩み

平成一七年（2005年）

障害者情報クラブ 介護支援センターとことことして活動開始

平成一八年（2006年）

特定非営利活動法人 とことこ 設立 七月二十日

平成一九年（2007年）

特定非営利活動法人とことこ 第一回 通常総会懇会

NPO法人とことこニュース 27号 28号 発行

平成一九年度 ヘルパー養成研修実施

特定非営利活動法人 とことこ 納会

平成二十年（2008年）

特定非営利活動法人とことこ 第二回 通常総会懇親会

ーレセンター 引越 六月 宝塚市山本南二六五

NPO法人とことこニュース 29号 30号 発行

営利活動法人 とことこ 納会 三回開催

平成二十一年（2009年）

特定非営利活動法人とことこ 第三回 通常総会懇親会

NPO法人とことこニュース 31号 発行

平成二十一年度 ヘルパー研修 もとと聞いてよヘルパーさ

ん」一回開催

平成二十二年（2010年）

特定非営利活動法人とことこ 第四回 通常総会懇親会

NPO法人とことこニュース 32号 33号 発行

平成二十一年度 ヘルパー研修 救命救急初級講座」開催

特定非営利活動法人 とことこ 納会

平成二十二年（2011年）

特定非営利活動法人とことこ 第五回 通常総会懇親会

NPO法人とことこニュース 34号 35号 発行

平成二十三年度 ヘルパー研修 障害とは、障害者とは」開催

もこと知つてよーレセンター」開催

特定非営利活動法人とことこ 五周年記念交流会

特定非営利活動人 とことこ 納会

理事会 年五回



各種啓発運動 勉強会 講座 バザー コーヒー販売 随時参加
トライやるウィーク生徒受入れ 職員研修 随時
いらっしやいませ倶楽部 参加（毎月第一 第三金曜日）
長尾バリアフリーサロン 参加 毎月第四金曜日
各種印刷 年賀状印刷

わたしの五年間とこの五周年にあたって

この理事長 吉原 祐子

NPO法人「このこ」が出来てもう五年。月日の経つのがとても早く感じられます。「このこ」の設立を現実のことと一番に感じたのは、中山君江さんが事務所を借りるのにあたって車椅子が入るか?どうかを試すのに、息子の車椅子を借りに來られたことです。障害者情報クラブからの暖簾分けで「このこ」が誕生することは頭では理解していましたが、いよいよ本当になるのだなぁーと実感した出来事でした。

障害者情報クラブの作業所・センターも「このこ」の作業所部門として「このこ」と一緒に障害者情報クラブから巣立つこととなりました。その前年に宝塚養護学校を卒業し「このこ」に通っていた息子は果たしてどんなお仕事ぶりだったのか?...まさになんちゃって社会人ー状態。親としては本当にお世話になりっぱなしで申し訳ないばかりでしたが、彼が毎日とても楽しそうに充実した様子で喜々として通う姿がただただ嬉しかったです。まだ大学生だった兄より一足お先に社会人?になったことでお兄ちゃんに對いつも「下や顔」をしていたのも、可笑しい思い出です。

この調子で思い出を綴っていたらいつまで掛かることやら...この五年間は我が家にとっても激動の五年間でした。★私の母が病氣になり私たち家族と共に過ごしながら二年間の闘病生活を送り昨年亡くなりました。とうとう私は親なき子になりました。★その母と一緒に過ごし、車椅子生活を送る息子が将来にわたって喜らせるよ

うに考え抜いてバリアフリーの家を建てて引越しました。★兄がようやくこの春に大学を卒業し、神戸の病院で研修医一年生として頑張っています。やっと、脛をかじられなくてよくなりました...ホッ。★息子の念願だった犬「ジャックラッセルテリア」を飼い始めました。ジエームズ...007の大ファンの息子が名付け親です。

次の五年間...何が起きているかしらー穏やかな五年間であってほしいです...でも、五年後のこの原稿はまたもや「激動の五年間」を綴っているかもしれませんね。

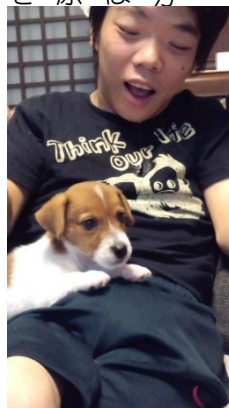
笑)

私の五年間

この理事長 石川 博之

この度五年間務めさせていただいた「このこ」センター長職を、わたくし事で辞させていただきます。職を辞することは心苦しいのですが、敬愛する中山センター長のもと、微力ながら介助スタッフとしてお手伝いできればと思っております。

この五年間は、いろいろな人に助けられながら、自分の限界や、みんなと物事を成し遂げる喜びを教えてもらえた期間でありました。これからの私は、この五年で得た出会いや別れなどの経験から自分を見つめなおし、自分にできる精いっぱいを生きていきます。



私の五年間

NPO法人とことこ 障害者情報クラブ介護支援センター

とことこ 職員 野村 百合江

七月十八日「海の日は足元の悪い中、午前中にヘルパー研修、午後から利用者さんヘルパーさんいつもお世話になっている方々をお招きしての「とことこ五周年交流会」普段あまりお会いする事のない方々と各グループに分かれて食事をしながら雑談をし、お楽しみのビンゴゲームクイズで盛り上がり、なかには電話番号の交換とか、された方もいらして有意義な交流会でした。

平成十七年五月から月 水 金と、とことこにお世話になり、仕事上パソコンを使うようになり少しでも慣れたいと思い、やってみるがどこかでストップしてしまうパソコンの画面がこんなになっちゃったちょっと見て「とことこ触ったんと違っ」「いや、どこも触ってなのに……」こんなになっちゃった「パソコンに振り回されてつぎに勧めない。ともかく何をするにも時間がかかり、肩は凝るし、目は疲れるし」この五年間で老眼が進んだように思うし、とことこで仕事してなかったらネットをみる程度で終わっただかも？

五年以上たった今も格闘していますが、すこし楽しくもなってきました。困った時はすぐに教えてもらえるスタッフさんがいるのですごく助かります。利用者さん、ヘルパーさんスタッフの方々多くの人に助けられての長いようで短い五年間でした。

私の五年間

NPO法人とことこ 障害者情報クラブ介護支援センター

とことこ 職員 黒田 久雄

お題の「私の五年間」は、そう、一言で言うところ、穏やかな静かな一時でした。とことことは歩を一にせず目覚しい発展 展開は無く、穏やかに毎日を暮らしてきました。これも皆様のおかげと感謝しています。厳しい民間企業に永く在職しておりましたので、こちらの皆様の穏やかな笑顔が新鮮で、心温まる穏やかな毎日です。現職時代と打って変わり、閑職ではありますが、心癒される日々を満たされています。穏やかに心豊かに暮らせることは、本当に素晴らしいと思います。障害当事者の皆様方に於かれましても、豊かな自立生活に向けて、一歩一歩着実に前進してください。私も及ばずながら、お手伝いをしたいと日々願っています。

とことこ五周年記念
パーティーにて



私の五年間

NPO法人と「こころ」障害者情報クラブ介護支援センター
《いよいよ会計と介護の仕事をやらせし頂いてます、
中山かおるです。》

以前の会計の書類を見てみると、変なやり方しているな〜と他人
事のように思います

とにかく初めは手探りで解らない事が解らない状態でした。

人に聞いたり講座に参加してみたりと色々やってみました。ボ
ンヤリとしか解らずただ焦るばかり。

今もやっている事は以前と変わらないのですが、あの時講座などで
聞いた話が ああ!! あれはこういう事かと感じる事が増えてきま
した。脳まで届くのに随分時間が掛かるようです。

今後もあの頃に聞いた話が届いて ああ!! と感じる事が増える
事を願っています。

介護は難しい数式などはないのですが、利用者様との「コミュニ
ケーションに悩む事が多いです。

話をするのが好きな方、話を聞くのが好きな方、自分の時間を多
く持ちたいので黙っててきばき作業をしてほしい方など様々で
す。

当然、利用者様によつてヘルパーに求めるものが違い、お互いに理
解しあうまでには時間がかかります。

ある方の所では 明るくて楽しいヘルパー」でも違う方から言わせ
ると「おしゃべりが多すぎて疲れるヘルパー」の場合もあります。

一人の人と個別に接触するお仕事なので最終的に「どう」言わな
いは出てくるのですが、入っている時間がその利用者様にとって有
意義な時間になればと感じます。

「明日はお疲れ様でした。ではまた〜。しつれいしま〜」

これは私がよく使う挨拶です。

やつてしまった失敗や後で気付く余計な一言。

次は気をつけよう、次会ったとき謝ろう。たまにあります。

でも今回 「ではまた〜」が叶わなくなつてしまった利用者様がいま
す。

当たり前ですがあると思つて接していた方が急にいなくなる。

そんな時が来るのは人間だから当然の事なのに、本当の意味では
理解していなかった。

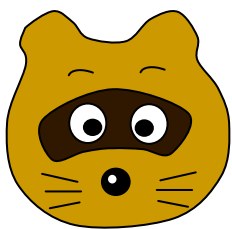
次があるのは「当たり前」ではないのだと言つ事を改めて感しま
した。

ヘルパーは利用者様と「一時間しか接しない事もあります。
短くても利用者様にとっては必要な時間。

後悔のない有意義な時間に

出来るよう今後も頑張つて

いきたいと思います



私の五年間

アイエルセンターイラスト担当 河合 恭子

私の五年前は？という希望の家ワークセンターという施設に行っていました。ワークセンターでは入所者と通所者の利用者がいて、私は家から通っていました。私には小さな夢が二つあり、一つは人生を大きく左右する夢、叶えたけど最終的には叶えられなかったのと言えませんが。二次障害が出てきて上半身の障害が重くなつて、一日働けなくなつて、小さな夢二つのうちの一つを実現する事を考えはじめ退所しました。退所後、ボランティアセンターで「パソコンのワードで簡単なイラストを描けないか？」と問い合わせ、グループの代表者の方を紹介してもらい、月二回木曜日通わせて頂いています。小さな夢のもう一つは、イラストレーターでイラストの描き方を上達し、支援センターで働くところがないか？と聞き、イラストレーターを紹介して頂きました。

ワークセンターにいた頃から一人暮らしを始めようと思っていました。今年、本格的に家を探すことを家族に相談し、家族と一緒に探しました。

実家から歩いて三分ほどの距離で2DKの部屋が見つかり、いろんな面を考えて二階を選びました。十月から生活してみると、大変な面も多々あります。腰を曲げる姿勢は大変なので、支援センターの担当者が身体介護だったら無理な事はヘルパーに頼めばいいから時間内の 三十分身体介護という形で…」という事になり、何とかへ

ルパーさんに助けてもらいながら日々を送っています。

ただ、来訪者が来た時の対応に困っています。

喋るまでが時間かかるので、なるべく応答しないよう家族から言われています。

私の五年間

アイエルセンター 資料担当 出羽 克一

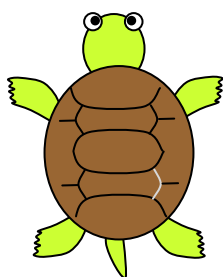
五年間思い出すと、その間病院も行きましたが今思いたすと大変だったが、又楽しい時期でもあった。

これからも中途半端はないと、思います。

そこで思い出はといっていますと、

小さいときチャンバラをして

遊んだことです。



5周年記念パーティー

私のこの五年間

アイエルセンタースタッフ 古谷かおり

「この五年間」というと、ちょうど今、一人暮らしを始めて十年なので、一人暮らしも五年過ぎて、だんだんと慣れてきた頃に廻ります。様々な予想外のことが起こった五年間だった。

一番大きかったことは、「腰椎すべり症」の手術と長期入院である。急な感じで腰痛が起り、それまでのように自分の身体を支えていることもできなくなっていた。

手術という方法でしか治せない、ということを知るまで、いろいろと人に聞いてみたり、自分なりに考えた。普段の姿勢を正す為に椅子に工夫をすること、生活自体を変える、つまりバリアフリーの住宅に住まいを変えること、リハビリ…。でも、その前に、手術を受けるか否かの地獄の日々があったが、良い先生や多くの人たちの支援のおかげで、退院後には元の生活や活動に帰ることができたのは、奇跡だと思っている。

今の私の住まいは、一般の文化住宅の一部を改造しているが、特にお風呂が狭く、自分もヘルパーさんたちも歳を重ねていくので、身体的に入浴介助が困難になっていく。それで、お風呂場の広い住宅に住めるように…と、市営住宅への申し込みの挑戦が始まった。しかし、私の希望や条件に合った住宅の募集がなかなか掛からない。この現状では本当に困るので、市長さんに要望を話にも行っただけだ。そろそろ、生活しやすい住宅に引っ越せることを期待したい。交通の便も整っていたら、なおさら良い。

ところで、私は、福祉系音楽グループの『ミュージックファイルズ』のメンバーにもなった。きっかけは、代表から「この曲に歌詞を付けてほしい」と頼まれたことだった♪「ぬくもり」というタイトルもすでに付けられていたし、音符が読めない私にはデモテープを聴きながらの半年がかりの難しい作業になった。でも、その分、思いがたたくさん詰まった歌になり、替ではわりと有名な楽曲!? となった。その後、少年と少女の物語」という胸キュンソングをはじめ、お祭りソングなど、ユニークな歌も作った。

そして、アルバム『こんにちは、フィールズですー』が発売中です！福祉施設や各種イベントにも出演させていただいている。ご興味がありましたら、ぜひ、『ミュージックファイルズ』のホームページをご覧ください。全国の人達に聴いていただけると、夢も広がります♪

自分にとって、創作活動は得意分野であり生き甲斐である。それを、昔も今もそして、これからも活かしていければ、本望です！

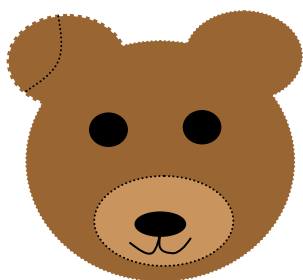
この五年間、お世話になった皆さんへ…、とても感謝しています。

動物のイラストは、

アイエルセンターのスタッフ

ペンネームきよひん

が描きました。



私の五年間

アイエルセンター H-1担当 土井 克哉

まずは、アイエルセンター設立五周年おめでとうございませう。

私の五年は、波乱万丈の五年でした。いろいろな役職に就かせてもらい、経験させていただいていろいろな人に出会わせていただきました。

前年度から引き続き企画担当、それと新たに始まったH-1 兵庫自立生活センター協議会』の初代担当に就き、人脈を広げさせていただきました。最初の頃は、就けるとは思いませんでしたし、出来るとも思わなかった。障害者情報クラブの三代目代表を拝命させて頂く事が出来ました。

私が動く事で必要な資格が増え、その都度、取りに行きました。

ピアカウンセラーアドボケータ……etc。それぞれ泊り掛けと資格を取る作業を重ねていきました。私の財産になりました。

代表をしてみても一年、反省点は色々ありますが、特に『ほうれん・そう』の大切さを知り、それが足りなかった事です。何かあれば、誰かに報告し、連絡し、その事に詳しい人に相談する事が出来なかったと思う一年でした。あつという間に過ぎていった一年間でした。

反対に代表になって良かった事もあります。周りの見る目が、随分変わってきたのと、人脈は広くなり、責任が重くなってきた事です。

しんどい事だけだね。

個人的ですか？

良い事はあまり無かったですね。いきました。いい人も出来ず、趣

味？のグラフも、平行線から右肩下がり、イライラだけがどんどん増えて

これからの五年に関しては、私もいい歳になるんだから、もう少し落ち着いて、出来ればパートナーを見つけていけたらいいと思います。

私の五年間をふりかえって

アイエルセンター授産品担当 堀口 礼子

私が、アイエルセンターに来て早、十一年が経ちます。

そのころは、アテンド業務をされていました。

五年前にNPO法人になってから派遣事業所が変わり、それから私も介護を受けています。

私がアイエルセンターに来たときは、まだ若かった 自称(ので、それに自分で歩いて動いていたのに今では、介護が必要な年になってしまいました。

五年前までは、いろんな会議、会合など出かけるのが好きだったし、チャレンジ精神大精で何事にもチャレンジしてたのですが、今年は、特に足が悪くなってアイエルセンターに来るのも減って、少しづつ減りました。

私の障害は、脳性小児麻痺なので足だけではなくて、手も動きにくくなり大変でした。

足の痛いのが治れば、又出来るようになるかな？なんて夢みています。

私の五年間

アイエルセンター 販売担当 山崎 宗晴

まだ、仕事に就いていましたが平成十九年一月にやめて、ハローワークで仕事を探している所でした。朝起きてトイレに行こうとしたら突然家の二階の階段のところで、目の前が見えなくなり意識も無くなり階段から落ちました。いつ病院に運ばれたのか分かりませんでした。最初に運ばれた病院は宝塚第一病院で検査して脳内出血とわかりました。初めはベットで寝たきりで起き上がることも出来ませんでした。

この時から、リハビリがはじまり、二ヶ月でベットから起き上がる事が出来ました。二ヶ月後、尼崎の労災病院に転移しました。ここでもリハビリをさせられました。ベットから車椅子に移り、車椅子からベットに移るリハビリをしました。二週間位してから立ち上がるリハビリをしました。三ヶ月ぐらいかかりました。後、一ヶ月半で杖で歩けるようになりました。

今、困っていることはお風呂に一人では入れないこと、背中と左手が洗えないのでヘルパーさんに洗ってもらっています。後、食事と掃除と洗濯もしてもらっています。

その病気で右上肢と右下肢が不自由になり、歩くのに杖がないとあるけないです。

せいぜい歩けるのは五百メートルです。電動カートがないと遠くにいきません。いつか、杖なしで歩けるようリハビリで頑張ります。

私の五年間

アイエルセンター 企画担当 吉原匡康

私は楽しんでいました。

私は楽しくしてよかったです。

犬がきてよかったです。ジエムズくんといいます。

ほくは、好きな人が出来ました。

その人とUSJ行きました。

アイエルのみんなと行く釣りを企画した。

でも、駅から遠くて釣りはダメでした。

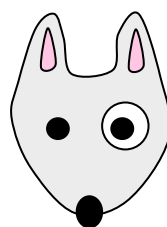
でも、また一緒に何かしたいね。

その他、ボウリングをみんなでしました。

私は企画を考えることが仕事です。

それから私は一人暮らしをしたい。

健康でいたい。



盛り上げる 企画部長



私の五年間

アイエルセンター職員 岡本 佐也子

五年前、まだ自分が福祉の仕事をするなんて思ってもいなかったです。アイエルセンターで働くようになってから八ヶ月が経ちました。

ヘルパーの資格を取得したものの実際に仕事をするのは初めてなので、戸惑いはかりの毎日でした。

障害者スタッフの方々のコミュニケーションのとり方も最初は分からずにいました。戸惑う私を見兼ねてか、ある障害者スタッフの方から介助についてのアドバイスをいただきました。

出来る事は自分でするし、出来ない時には声をかけるから手伝ってね。何でもしてもらわなくていいのよと教えてもらいました。

出来る事は自分で行う。当たり前のことと分かっていたとしても、つい、お手伝いをしないといけないと思っていた私の考えを見極めてアドバイスをしていただいたと感じ、とても嬉しかったです。

介助者として働くという事は私が介助することだけではなく、障害者スタッフから私に色々と教えてもらうことが沢山あることだと知る最初のきっかけになりました。

私にとっては五年間と言うよりは五ヶ月間になりますが、アイエルセンターで働き始めて五ヶ月も過ぎたあたりから私自身の事を障害者スタッフに知ってもらえたと思います。

最近は皆さん明るく、よくお喋りもして仕事をきっちりされるようになったなあと感じています。私も仲間に入れていただけたかなと感じています。

気負いせず、皆さんに助けられながらこれからも仕事をしていこうと思っています。

私の五年間

アイエルセンター 元木 直子

五年前 平成十八年、私は大阪市内の通信販売の受注センターでスーパーバイザーの仕事をしていた。

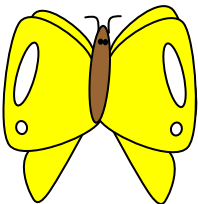
毎日販売の数字と自分の評価をあげる事に神経をすり減らし、さくれだつた心で人間関係も荒んでいた。

お金会社内での地位 効率 営業成績 上司の信頼等……。私はそんなものを追い求めるために磨耗しながら走り続け、しかもそれをどんどんエスカレートさせ、自分を止めることができていた。

折しもそんな中体調を崩し、平成十九年障害の認定を受け、更に時を同じくして会社がつぶれ職を失った。古い建物が崩れ落ちるよう、これまで私が守り築いてきたものがことごとく失われた。

そして平成二十年、アイエルセンターと出会い、障害者として生きていく道を与えられた。

障害を持ったことで、それまでいかに自分が傲慢で自信過剰だったかと思い知らされた。何でもできること早く走れること上手にできることばかりを大切にしてきたけれど、何にもしなくても人はそこにいるだけで大切な存在なのだと、言いつことを、障害者の仲間から教えられた。



何かをつまくり遂げたからとか、何かを達成したからといって人は存在価値が上がるのではない。私は大きな勘違いをしたまま、見当違いな方向に向かってしまっていたのだ。

障害を持つことで、私は索漠とした生活に、ピリオドを打つことができ、心穏やかに生活することができるようになった。五年前までの日々は、今日のこの平和にたどり着くために必要な過程だったのかもしれない。



バリアフリー調査in赤穂



懇親会にて

私の五年間を振り返って

アイエルセンター 編集担当 木内 佐世美

五年前の私は病気が進行して仕事も辞めなければいけない状態になり、今の自分とは大分違っていて何をしても自信が持てず、何をすればよいのかまた何ができるのかと焦っていた時期でした。日々落ち込んでいくのが耐えれなくて「日でも外に出よう」と思い、行動に移し地域包括支援センターからデイサービスを紹介され、行きました。デイサービスの先生からこのアイエルセンターがあることを教えてもらい、アイエルセンターを見学させていただきました。

私は得意なものもないし、何も出来ることないなあ」と思っていた時パソコンをされている姿が目に入り、パソコンならしてみたい」と思いました。通い始めて三年が経ち、今では編集の担当になり皆さんに原稿依頼したり自分でも驚くほど、生意気な行動をしているのでは？」と反省する時もしばしばあるように思います。(笑)

もう一つ嬉しいことがありました。それは狭かった世界が広がったことです。去年ピアカンの講習を受けさせていただきました。人と喋るのがとても苦手で、喋るのが怖かったんですが少しずつ他人と話す機会も増えて、仲間も増えた事に嬉しく、色々な方と喋るのが私にとっては良いリハビリになっているように思います。もっとも『これから積極的になれたらいいなあー』って思える自分が出てきたように思います。アイエルセンターのスタッフ及び職員さんのお蔭だと思っています。これからマイペースで自分を磨いていきたいと思っていますので、宜しくお願いします。

ボウリング大会

日時：平成二十三年二月一〇日(金)一〇時～一二時迄

場所：川西ラウンドワンにて

宝塚養護学校との交流にて楽しい時間を過ごしました。

昼食は、モザイクBOX 東春閣でおいしいランチ

「宝塚養護学校の生徒さん」の感想

★今日は楽しかったですヨカッター

★ボウリングは、家族でよく行きます。

今日のため練習しました。でも

今日の方がヨカッターです。

みんなでわいわい言いながら、

楽しかった。

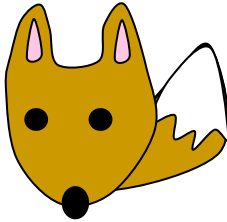
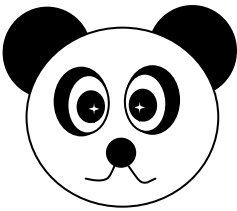
★ボウリングができてよかったです。

まだ呼んでください。

★ブービー賞をもらってうれしく思います。

もったくさん点をとりたかったなあ

練習もしてきたのになあ、おかしいなあ



ボウリング大会 一位 長尾 修治

今回は経験した事のない優勝をありがとうございます。

今年の運を使ってしまったかもしれない(笑)

また、皆さんと楽しく過ごしたいです。

そして連覇を目指します。

♡♡♡

初体験 優勝感謝 共に生きる」 長尾修治

ボウリング大会 二位 土井 克哉

私は、ハルピンで二位になりました。生徒さんを招待した方が二位になつてどうするねんと言う話ですわ。

賞品は マクドナルドの五百円券でした。

私が思うにボウリングの楽しみはボウルを真ん中に来るかだと思ひます。私が心がけているのは、持つ所の三角を真上にして専用台の上に乘せてもらつていますが、なかなか百以上はいきません。私はボウルが持てないので介助者に頼んで持つてもらひます。

★企画してくれた吉原さんです。★

アイエルセンター企画部長 吉原 匡康

皆が参加してくれてうれしかった。

皆も楽しくボウリングしてました。

私は勝つてみたかったけども、私は負けたのでうれしかった。

私はまた勝つてみたいです。

☆バザー用品のご提供、ありがとうございました。

障害者小規模作業所アイエルセンターに、沢山のバザー用品ご提供頂き、皆様の暖かいご支援に心から感謝し、イベントやアイエルセンター内で月々金曜日販売致しています。

今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします。

御礼

歳末助けあいの持ち寄り運動から助成金を頂きボウリング大会を開催することができました。

ボウリングを通して交流がもて、有意義な時間が過ごせました。有り難うございました。



昨年「歳末助けあい愛の持ち寄り運動」
で頂いたボウリング台

特定非営利活動法人とことこニュース

編集人 特定非営利活動法人とことこ

所在地 〒665-0882

兵庫県宝塚市山本南2-6-5

NPO法人とことこ障害者情報クラブI.Lセンター

【障害者情報クラブへのご寄付、会費の振込みの方】

TEL&FAX 0797-82-2233

E-MAIL sjcil@hotmail.co.jp

郵便口座 14360-43110611 障害者情報クラブ

銀行口座 三井住友銀行 逆瀬川支店 普通 3566211

障害者情報クラブ

【アイエルセンターへのご寄付の方は】

池田銀行 山本支店 普通 28004

特定非営利活動法人 とことこ 理事長 中山君江